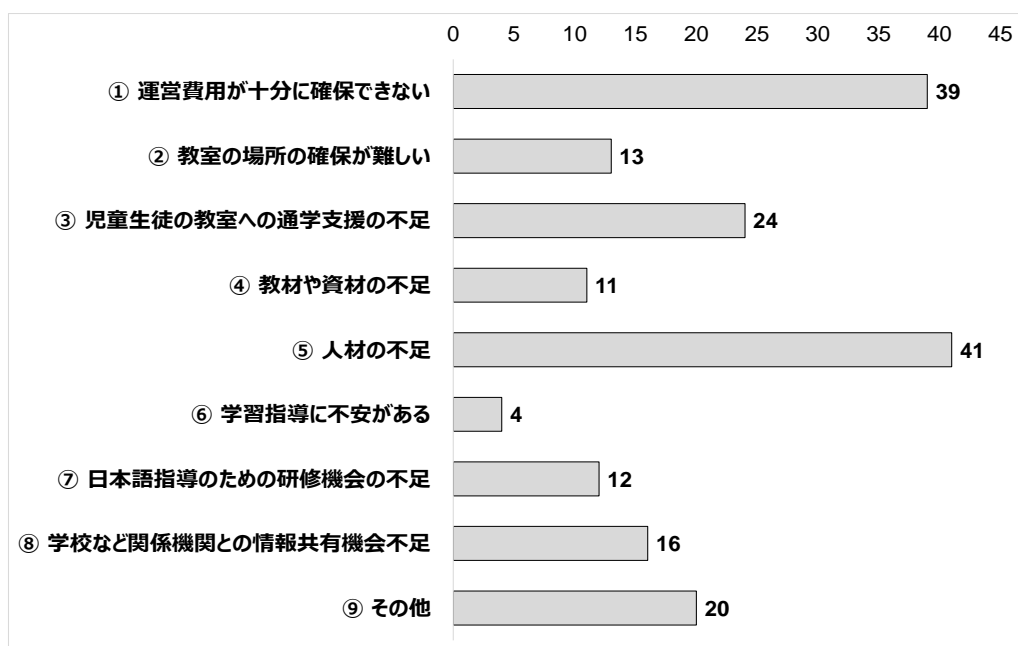


問 26 【複数回答】

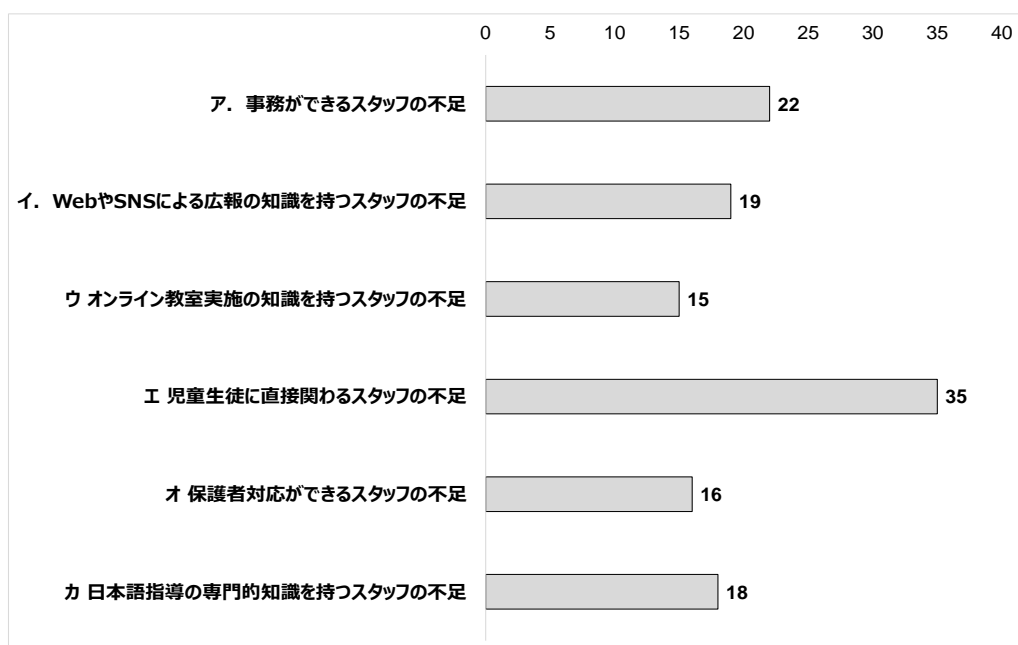
児童生徒向け日本語教室を運営する中で困っていること



(n=65)

問 26 で「⑤ 人材の不足」と回答した教室

◆人材の不足について困っていること



(n=41)

問 26 で「⑨ その他」と回答した教室

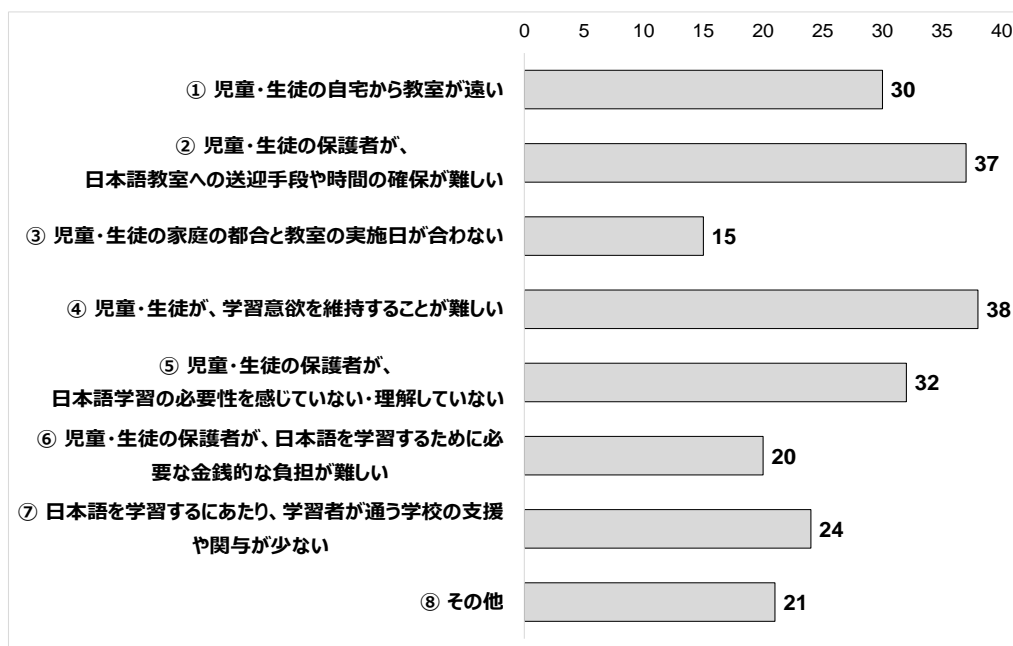
◆その他 具体的に困っていること

| |
|--|
| 市の援助がほしい：5件 |
| 企業、NPOからの助成金は単年度であり継続的教室運営が困難。 |
| 学習者の進路が限られる。 |
| キャリア教育の不足 |
| 日本語指導の知識を持ち、わかりやすい教科指導ができるスタッフの不足 |
| 生徒の生活環境や学習環境に心配な点があっても、保護者や学校との意思疎通が図れず、支援が滞ってしまうケースが出てきている。 |
| 日によって児童の数とボランティア（指導者）の数のバランスが悪い。 |
| ボランティア参加者 |
| 教科書が改訂され、教室に同じ教科書がなく困っている。 |
| 公的支援を受けていないので授業料を安くできないこと。 |
| スペイン語、ポルトガル語、障害のある子どもの無料支援をしたいが現状は難しので、新しくNPOを立ち上げてのぞみたいが方法がわからなくて困っている。 |
| HP運営をサポートしていただけるボランティアを探している。 |
| ボランティアスタッフの学習支援啓蒙とスキル維持（定期的研修が必要であると思う） |
| 会場により参加児童が少ない（学校を経由して周知してもなかなか集まらない） |
| 外国人児童向けに周知してもなかなか対象の生徒が集まらない。 |
| 今の代表が引退した時に、後継者となる者がいない。 |
| ボランティアに交通費を支払いと望ましいが、そこまでの費用は確保できない。 |
| 出席する子が、コロナ禍以降減少してきている。 |

(n=20)

問 27 【複数回答】

貴団体が認識されている児童・生徒の日本語学習における問題点



(n=73)

問 26 で「⑧ その他」と回答した教室

◆その他 問題点

| |
|---|
| 学校との（取り出し授業など）連携が必要：5件 |
| 放課後教室だけではどこに日本語支援が必要な児童・生徒がいるか分からない。：5件 |
| 保護者と児童生徒が欠席等の場合の連絡がとりにくい：2件 |
| 保護者への必要性の周知 |
| 放課後教室だとすると、支援者の手が足りなくなると思う。 |
| 保護者との関わり方、通訳さんの不足 |
| 一週間に1回の学習支援教室で、できこと限界もあり、何をどこまで関わるのかスタッフ間の共有ができていない |
| 児童・生徒が置かれている状況が把握しにくい |
| 人材不足から、支援を必要としている児童生徒全員を受け入れることができず、待機している児童がいる。 |
| 学校の教科や授業に出てくる日本語の理解が進まない。 |
| 過度な外国人（ブラジル人）集住により、児童生徒の日本語習得に影響を与えていること |
| ●●こども園は外国籍比率が約10%であるが、●●こども園で日本語指導を受講した園児が入学する小学校は外国人比率が約70%であるため、日本語力の低下が危惧される。 |
| こども園内の外国人（ブラジル人）園児の比率が9割ほどあり、日本語の習得に影響を与えている。 |
| 日本語学習の必要性を感じていない教職員が多い |
| 高校入試のための準備が早いうちから必要なことが児童生徒や保護者になかなか伝わらない |
| 学習者ごとに理解度が極端に異なり、対応が困難 |
| ブラジル人学校に引き続き通いたいのに、兄弟の下の子が小学校に入学する時点で、家庭の金銭的な負担が増すのでやむなく小学校へ転校する子がいる。親が家を買うとその都合で小中学校へ転校させられるが、文化ギャップが大きく、大学進学までつながらないことが多い。ブラジル人学校を卒業すればブラジルの大学に入れるが、日本の学校へ行くとも語のレベルを維持するのが困難であり、大学進学まで繋げるのは難しい。 |
| 児童生徒に学習と将来の夢の実現の関係性を自覚させるのが難しい。主体的自律的行動のできる人間に育てたいが。 |
| 外国人児童向けに周知してもなかなか対象の生徒が集まらない。 |
| 当市では少子高齢化で、小学校の統合が多く、現在のメインになっている学校も数年後に統合される予定。子供が継続して来るか、不安が残る。 |

(n=21)